湖月抄

のしき末

武六

河内文庫藏書
河内文庫

梅木　花以詞為題為巻名とす　初りは梅木とう
ぐとあり　仮名は千ハ梅木よりの事なるの形はいまだしも人
なるべき者のこゝろ思う　細　源氏八巻の冒頭より秋
の末てけり　源氏八巻の十八巻の十七巻の十二月まで也
盃　源氏四十八巻二月より末也　秋つかるれば　まぐ
ありこと　薫誕生　作り



梅のうんの云　細　病とこ
ろしくまぎらぐ年久
しくなりぬ
ちゝのくるのこるれん命
ありうずと
命をたのみてなるなるこゝ
なくこゝ
つゝとりろべき事を
又母よりきこゆ　源氏の
歌ことゞけく不孝の
罪とりきこゆ
ちゝ罪とりろべきなるを
ちゝはくしてこゝ
らくこゝはのうゝぬ
ちゝこゝを祈りをさ
こゝはひのゝこゝ
ひのこゝのちゝのちゝこれ
ちゝと申りはゝ
花一門は女三宮の古姫ん
よ位ゝこゝ　源さ位
ゝて石崇られこゝり
ゝる　細　女三宮をとりこ
ゝこゝ　花暦寸
梅

梅のうんの云ゝ　源氏の
ことをとゝ　源氏四巻
ゝ　梅木の文母の
ゝ　源氏四巻
ゝ　梅木の
ゝ　細　以下梅木のこゝ
ゝ　梅の
ゝ
ゝ
ゝ

孟思為こ
うぐくの世の中をあじ
う　孟　人くさの我身ひ
しかのうさうう

孟山みをあくれん
孟　つくみる世をばてえん
ムてて我身を山まをて
山つくうれいるすくを
つよのあくれんう

身をせひ世ってるうぐくろ世
中すう面ごうひるりて後の世ろとこ
るひよ用いみくすうこみ一とおやうち
のはうしうとをこひて　又母の恨と道世まぐさ人の名　孟山みをあくれ
んろのをうこ面うぐ面ゆまぐ一はつて色
ぐとうう面ゆまぐ一はつて色
しつうをつぬよる紙ようよちまひべく
を見しぬりのうひの一うるうべ身うり
そひみくうし　孟　兵我身を恨と　紙ちは用うは推いつう
うう　我ふうぬそうひしと
ありれとうふよううひべさ人りみ一郎仏
ををうこうんうるうい見られうぐうさこ

孟　天不悪人不為　お世の因果と

しうれううう世の　孟　ぬうく
を世よんよ他のうるうぬ
うう張をみ一世の行る
うるくよ　六花小町
人ふもをうしうちうのを
まぬべう　細　今ゆくゆ伯
うぐ女三文をもけるゆ人
と地ぐ一あつをうるも
うあうんをうんうう
うけの表をるうの弟人
表女三文のうう　郎　うけ
やりの表をもけるふ
あうんをうう
なけのうのよ　細　髪出乃
身をいうぐうよちをう
をひうりのうひうりて
我もんを　細　音身のあ女
三の文乃ゆうあうぐよ
みぐうて八文平盛と伝
ううまあう
うあうとんをいまうん
細　伊の名れよりうんす
を死後よいうをうぐ一

孟

うあうあうれも千年の松ううぬせい
つるよとうぐうさみをわうぬをうう人ふも
すううちのぐれぬぐう行みうげ表
ををうけ活人あうんをうういひうり川ふり
りうあうう一ゆうをあ一をあうぐうう人ぐ
をのづうあうをうぐうる紙りうう紙を人
もやをううぬうぐれいぐうるやうもあう
んうりいあ一とふをい活ってんあううよ
ををりうをゆりゆうんう一ろ川の
うう一いゆ面をのうぐめゆ人れをうぬぐうを
ぐうりう人こうざ面のあやまりうければ
うぐりのくりみうぐにゆりうるひ

名

孟　をやく刻のあるまりハるうう
孟　係のひりうう一るうう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世のもおもうて行きとゝん
香ひ[illegible]

河蒼頡観鳥跡作文字史記

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人ゝ八ゝ北ゝ山ゝ
源氏のとゝ
人のゝひゝ
孟子

智恵力能令地獄極重
之業現世輕受愚癡
之人現世輕業獄重

細井のふを名ぬ人のそうく
ん
しうをとせまつり。えづさうの
じめて。（孟中文繊く）（細中文の文まうく）
（孟中文）
いうちうそれをもかやけば酒なり。
（細冷泉流く）
ちごの場ごとにんごとよつうまつり
まうごさまよびびくるまごともばされぐ
ばごさうのれもふくひのそさけの文
しうちよ蓮ゆるばあやうさ毒結毒用うさ
のそうさ（孟流く）ようるさまでうづきまく
まんどの場ごのれんのうちよらうづる
しく場用とことありていうこうをりて
（細陸結ハうく）
うやしうさうして結うず。れあそびるまどは

ちうこのめつてうこうこうろ
河廳召次所おもへ
源氏の流同ともく

（孟結ぬく）
（孟文食く）
（六条流く）
（孟文食く）
（孟文食く）
（孟文食

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まことにさめがたきさわぎに
あるべしとなん
孟子程に老少不定の
義と思侍れ
親のさきだち給ひぬる程
の法事くさなどで女
三のさきだちたまふく朱
雀も女三も妄執の惑迷
あるべしとなん

うしやまことに
源氏も遁世のこころざし
ひとすぢに朱雀の御心
をうしやとおもふ



なりうしろめたく思給へ
りんさまをさきだてまつり給
へるさまなり
女三の御ありさま
ひとへに我法を見ん人と院

なりうしろめたく思給へ
りんさまをさきだてまつり給
へるさまなり
女三の御ありさま
ひとへに我法を見ん人と院

女三の
御法服を
師法服を
孟師の法服を
女三の法服の九條を
朱雀を
女三を
源氏の
紅梅の
朱雀の女三とうの中将とのこと
細殿の御局
父帝の御覧を
御験付

の巻終り

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人面発きらんぬ
細原のうこゝろ
中納言えあつまりて
めしこめ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

雀も中内のたゝ[illegible]
三条の女　細　女三宮の中内
[illegible]
[illegible]　仰　源の女三宮さ
[illegible]
雀の歌きゝ[illegible]に
女三宮は柏木のまゝ
[illegible]

[illegible]　細　柏木は[illegible]

この[illegible]　細　給仕ら長く
[illegible]
[illegible]　赤雀
[illegible]　西　女三宮ら素
[illegible]
[illegible]　孟　女三の[illegible]
[illegible]
[illegible]　柏木の[illegible]
[illegible]　細　柏木の心
[illegible]
[illegible]
[illegible]　細　不堪琴　仰　[illegible]
[illegible]
[illegible]　女三の中と柏木の[illegible]
[illegible]

[illegible]　細　柏木は[illegible]
[illegible]

[illegible]　細　紅梅の[illegible]
仰　柏木の[illegible]

[illegible]　四　[illegible]
[illegible]　孟　柏の母の[illegible]
[illegible]
[illegible]　柏の母の[illegible]歌
[illegible]
[illegible]　柏木の[illegible]
[illegible]
[illegible]　孟　柏木の[illegible]
[illegible]
[illegible]　給仕大臣の
[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]

しらうびよりはひかりて今一しきりの
今上のかんをく柏木暴卒
の後ひよ病気をとり
なをしんを奉て来
内もわれうとをれ
ぬをもるもなをく

つよくうるうし　細かく
権大納言よ推位なる
ぬる日ひをえよりたんなるよ
くわうをうしをうく
ぬしらうびみる　細昇進
を賀せをうる也　仰権
大納言よりはしらる
こびよ夕雲れおりをる
なり

しらうびて俄よ柏木の病気とすぐをもせをうんをく
後よ権大納言よなるをとをつ
今てをびもまり給
ひをうして
やうをうをく柏木の病気書くて柏かえも之十のなる
をうをうをうを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くるしみてとりあつまりぬるよえらくまれ
なるものうれしけれんちのこゝろを
ぶつるこゝろをしるべしなどいはんつる
くのこゝろをみるべしのまよ（細 掌の句）
けがをもはやしかばそこをこゝろ
こゝろもなけれどもこゝろをもつ
まんざりしはなるべしつもるこゝろ
まれど今はいかしごろもこゝろ（孟 説心）
やうよるゆゝしげるさまをこゝろ
ひさしくめるこゝろをいのり祈る
ものやまずはつづくよゆくこゝろ
うはまべらんろうもそなんいそぎこゝろ（孟 こゝろ記こゝろ）

いのり祈る祈りごとの命はかりこゝろ
祈請を祈りごとして命ハ
うれしくこゝろをもつこゝろ
もちもちこゝろのこゝろ
もつこゝろ福のこゝろ記
期をまつこゝろもつこゝろ
なり

こゝろ人は世のこゝろ
細 三るこゝろ口惜こゝろ未
へひのべこゝろ

こゝろつふまこゝろを
細 海の浪いこゝろ共いこゝ
ろこゝろの浪こゝろ世
暁孟日

分をこゝろこゝろ
かをこゝハ世間主分のこゝろ
べしこゝ主後のこゝろ白
し孝経云夫人始於事
親中於事君終於立身ハ
んとものづくこゝろ
思ふ分をこゝろこゝろ
和ハ論語曰曾子曰吾日三
省吾身為人謀而不忠
乎与朋友交而不信乎
傳不習乎（孟 説心）
主分のこゝろ
こゝのこゝろをこゝ

こゝはこの世のこゝろ（細 世の珍金ハ珍りこゝ）
のこゝのこゝろ
こゝて今こゝよはんどこゝ
こゝつこゝもつこゝもるこゝの浪
こゝはいこゝ（細 こゝ）
こゝ分をこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝ
こゝ

人数まい　細密なる法はいかがとそうでうれいどころ

いとけなく作りたる法を多くは
我はとはいふなり法をあまよ
かく法のゆるさぬれまゝ
じるさわりなくとく女三
のまをあつつみていと
で後をえとはいひ法を
つまく

法をくぐりてしてうつ
は我はいふまよ夕雲は年
ぐめとさてまの法は
にしうつう法へりひら
さてまつく

をくんうろもはう
うぐゆるれうんうん
はくくよ

夕雲のりまをうひて
我は法をもはは勤商を
法よゆるされうぶ夕雲
の内功徳ちくんく
さてくくよはえしも
とくえうくず
柏木の若げうとろ
はくくよりて女三のま

いれざりけめど、いとけなくて作りたる
まよ
くくくるのとりんの作りを、いとなりざ
うぐんるのありきりまりこれ
執られ勤行未来よりとまりへくく
のまれうまへくくあり作りそれぶろる
うりぶるくくう
の法乃世のうを海こげよりやとなる
ふをくくのつづく作りぶれてとぐ
めくくうのうくうめりさせまへ
みくくんうろもぶうぐゆるされ
くくんるんぶくくよ作りづきるぐの法
まくよいとうくげよのくくまくれば
夕雲のくくくくふのくちよとひあるすくこと
どもあれどとてくくくよへくも

細密
公一事今生は安
論ず
孟勤事
徳也

とハゝの人会をみぐるしう
うよハ勢の付ごりしこと

そどく物ぞうあるよ
て八　盃　ゝのすはん
よりらばのとくとく
うけまつりぬぞ
しりくさ海りく
柳原人のしこもりれ病
のとりしうと柏の結
まゝゆよゝ雪の別
て松梅よりふし

くゝあをとりもや
つあゝめたとハゝて
ゝりしりゝゝもう
まりゝゝよゝある
のりゝよ元ゆゝさとと

ゝとりゝ
よハ柏木とゆゝ
よさやう
まるう
ゝりう
しゝゝ
まぐゝ
ゝ
ゝ

女房とは　孟冷泉院の女房、弘徽殿柏木のいもうと

やむことなき　細　高貴とは

ものの益なきものの、
なくなりぬるをいとあはれと
思ひ給へるなり
やむごとなきものの
あはれなるものの、
なほ人のあはれなるものの
なげかしがるなり
されば世皆不二穿固一如氷
殊泡焰、法華経

女房をばさうもいはずとぞ　細　雲井雁

ものもいはずとぞ、ひとねのけさ
なげきもいとうるはしげさ給へるに　柏木のもと
ものもいはずとぞ
あはれなるものの
細　むかしの人のこと
いたのみ
つまさきのよりもひまもしまひろれば
ものもいはずとぞ
てをさせ給へれど、やはらかにうちねで
ひるまざまよりもんをうち、女房もづる
よえ射角しまいまらで、あいのうちいり
やうしてうをねぶりしたまとのうちと
そ給へんじろよりくもるらしうえさ
みはいとあはれとてなりうづ

細　柏木と女三宮との中のもと

細　雲井雁

柏木

柏木

柏木

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとんごろうまばゆさ
細 伊海よりあ抜先一丁ばかり
ほ 高天ハ太郎殿のよ
ろよろくにりてうさ
ろくをまろかさとしつる
抜一抜ハ いまこと太郎殿の
自のくちろよろくの
抜をわるを真かのしめん
ごろくとあろ抜是為明
星よハ抜の抜を用て天文
二年九月十日仍笠如此陸
奥せろ・盆津よハ前の抜
ろろ一抜のろハろわが
ろろ抜ろく・作抜も実よ
ろぬをしの義く
ろろハろよけごめも
西容ろそしのつとと尼
びさんとハろれ源よ祇
て書ろろろろろろ
祇餐もさゆごろくら

のねもろくよつろろこ和ひろりごのん
ごんごろもとろちみもそみもしのんを
ろろぬろくろるればとりちろ・およごろ
もすろをいろろろろごろうまばゆさ
わざるりやしそれ文ものろねるれぐ
しの赤の布をろひろごろろをいとろ
しゆばして・ひろひるごけでつけく
ゆろすろよ・ま下とひさやりくねのへいば
のあ
とろごしてそむさまろ・いごちハ
ろろ和ろてれぐいあしろろ
てなごろそごろろれどうろろハろ
よけごめもそ結ろね抜ゆ・ろろさく

ねハ尼とろふろごめもえ
えごごく
ろろ
細 澁絶
ろりろく
ろれろく
ろろろろ 細 洞のあり
ろ日で今ろしゆまび
ろろろ 洞のあり
ろどそとろよろろく

ろろろ
細 みろ比
ろろすとろろ
ろろろ 抜
しまろろせろまとれ
ろしろろろ

ほ 今抜ろハ
いまやろ
ろ
つぬれ
おろろのや
みごろのろ
げるり・ろ
いてろ
みろもろ
と・ろるぐ
ろんろす
ひもそろ
ろろ
ろ
ろろ
細 ろろろ
ろろ
ろ
ろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちりとゝ結よ。もやゝちのそでよ
あれゝとゝ。あい結ゝん。みもえゝとゞ。人
ちれどゝ（柏木のあまなのあるゝどゝ。ひのゞりしゝあしゝ）
ゝ。さゞゝ。めゞりゆゝすゞゝ
しゝ。ゝんゝりてゝゝるひつゝゝゝ。表も
（保氏の遺恨も引ゝてあれゝゝ）
ゝれゞゞめゞゝゝゝ

二条の人のさぶらひ
孟 紫上の御もの
ほの後よゆるしまぶり

細 柏木の連歌
孟 女三の宮と夕霧の
孟 速せ
ほのし
孟 柏木女三
細 宮井屋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おんなどもの所ハ法をこそ[illegible]
やつれて後をそなへぬもいと
哀法人後よくよくれてひれふし
むもれてこそさるりやはかの水ぐい
ふりてあれハ所をもすれぬ氣色
なるもあつ地ぬしくふる人ぐ
もみびいろよやつれつゝびしうつれぐ
なる物のつゝまれたるやうなるを
いかにかよりもりめるんあるめれ故殿
のれけふるひしこそらわをれていらつれ
てすくもあり大殿ぬのおつしるを
つゝもりれせそこやしつれまつり例の
弁のまえ寄れるぐのおつしるとぬぐ
つるとい大殿のつゝしげよふるかを

細夕雲の白
細雲
細夕雲の白
細雲の中を
細雲の中を
細雲の中を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

えらひこのかすとこそやうハ孟速そく
はるとうしひの家く　細夕雾の糸り絡ってとと今ちでめすり。ばかりどんす
こ家く易絡みと見てこうり　晩日
こうハのれちこりありろるよこそ　句愚稜　およ夕雾の今ハ乃ばどよのあひとる
絡ってとのあひーよ蓋さ　細花　面後　愚句
こ絡こ。あく夕雾の出又
まひをこどこうり
ようもさてて彼柏木
の遣こ云ものして契約
ろーよこそ　ひあ
こうしこ
ばりやこうあるとてこば
細柏木松生の時八代文
をなりられこうやうハ
てこどもしこくくよ
遣云志ものをこけ生
雖こうすこく花故東
ばこと二文とのれ中心
ろうるとてこうし
と今ハのこりよ二文のれ
こうをど遣云ろーとを
めばこきみも始こ在
ハまどを行ろこてれ喜
不のをこまるこ　孟月

ゆまりせのここりり
細無常の原理まくせ
ろのこうこよんをとろあ
ん　こ
あこやこうこ　細的ろ
やこうろ方こ道ハハを
ろやこくてあやを花
物こ連こいこうこ
花日我一依物こすここて
ハをく冷ここ海く
こやこうこハ花やこる
人道こ和和のこきれよ
ハこうこ祈ハこうこて普
通のこてこきれこ

の長ハこのん　細柏木
夕雾こりハ代長年の見
く仰　夕雾こ九八家こ

そけよこて絡ーこおまりせ
こうとこひこうこのこうこ
人のすこ花ほまこ
細遇不及のこ
こうこてはあざやこうこ
こ
夕雾の早下の細
ここ
細夕雾とこ
こうこあこ
細作こ
を人よまこ
女二のれこ中と夕雾のこハ恋れ
こんれこのこうれここ
こうも行これまどこ
やこよこ
孟こ
ここ
こ
こ
こ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のこりなくれどうくハさきに
じきるすりあてて
はたちばかりハこの家家子も実
よ者をとさうれぬんと
さらあらりてうくかろ
ものくし　師　神くらもたに
はたちぐの巻くんをちき
ふくるさくんくとし源氏
の夕雲よ宮ひしくなる
といろ祖らあるくしき

うぐいすよの柳の
おゑとをのをきを
うぐいすよのをのを

げよやうれのつ（夕雲の段仕と）（別て柏と云ふ）
ぐさうれいおまりよおさまりしぐれ
おつる涙ぞそうしるけもとゝ（夕雲）くしをめ
てぞりてうくしく法ゆくくもりわさて
本とゆうりしるれ中うく柏しのひしとこのふまめぐ
りよりあて（夕雲）えくめ法つぐ法さ
をぬれこくりをこうう法一条
のくさやよまうてしりつるありさ法をで
さて法いとくちくまゆとゆるまで
彩の雲よこるんぬるくそんふて
うぐいすよの柳のめるぞとありつると
ふうくるをまりうくいめとうくどやと

（段仕の）

げはハりくとあるつよ
りの柳の間よぞおとゆく
とあるを法仕のあるさ
よりひありせるて

女ハりぐりありく
柳女ハりて（ゆ）ぬ柳りん
ぐるりみれくふひか
ふ雲のくりくりさとく
思様ありひのこのりよ
つさて柏木のりれ些嘆
りくるくるとのりて

とりりつくる法（段仕のえりふくるとりくるくる）
法仕ちいくるくりるけるるりるるる
よりりりるりるるるりるるるる人
りりる（山吉の段仕の）りりりくくるるるれど
むくくりるりくりくりくりくりくりくりくり
りよりくりるりるりるりるりるりるりる
ひ法つぐ（細法仕ちたの柏葵よりる）えのけくぐえのくれまり
し秋りんりりりりりりりりりりりりりる
ふくくいりりりりりりりりりりりりりる
いりりりりりりりりりりりりりりりりる
りくりりりりりりりりりりりりりりりる
りりりりりりりりりりりりりりりりりる
りりりりりりりりりりりりりりりりりる
りり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一村雨を　詠　武蔵

一村雨の露もまだ干ぬ槙の葉に
きりたちのぼる秋の夕暮　　雅経

ひとの家にて

引方は虫のねもうづもれぬべし
今は夜もふけぬ虫のねをとひ
すりてうづ面白し　　蓮



ゆふ方の雨もかすかに
古今の詞
ゆふ方の雨もかすかに
ゆふ方の雨もかすかに
ゆふ方の雨もかすかに

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ど人の手ひとりぬことなれば いとうひ
なし 秋つくさるれば この花いろいろざ
うり盃などとなるべし
つまるべし

葉 細例の手もあ
イもいの字なり